

1. 練習時

(1) 基本原則

- ・使用する施設の指示事項に従う。
人数制限等。その他詳細は以下の通り。以下と基準が異なる場合は、基本的に施設側の指示に従う。

(2) 入退場時

- ①館内への入退場時には固まらず、間隔(標準 2m 程度、最低でも 1m)を空ける。
- ②参加者の氏名・連絡先を記録する。(参加者記録票(体調・体温欄あり)を使用)

(3) 参加者への徹底事項

- ①来場前に検温し、熱がある場合(概ね 37.5° C 以上)は参加不可。
原則、事前に検温し自己申告。検温し忘れた人はその場で検温(電子体温計はアルコール消毒し貸出し)する。
- ②熱がなくとも、体調がすぐれない場合は参加を控える。(特に、鼻水・倦怠感・咳や、味覚障害・嗅覚障害の疑いのある場合)
- ③海外からの帰国後 14 日を経過していない者は参加不可とする。
- ④発熱や体調不良が認められた者は、2週間程度の活動停止期間を設ける。

(4) 館内での行動

- ①マスクを着用する。
- ②適宜、手洗い、手指消毒を行う。(消毒薬を団で用意する)
- ③館内共用部(ロビー)での会話を極力避ける。会話をする場合一定の間隔(標準 2m 程度、最低でも 1m)を空ける。

(5) 練習環境の設営

- ・使用前・使用後に、施設の指示に従い、使用した用具(椅子・譜面台)・ドアノブ、床の消毒を行う。
消毒に必要な消毒薬等は施設支給のものを使用するが、団でも用意する。
椅子・譜面台のセッティングは保護者・理事が行う。譜面台は各自が自分のものを使用する。
- ・名札や楽譜等、練習の都度の配布・回収は当面行わない。各自が自分のものを使用する。

(6) 楽器毎の演奏上の留意事項

- ①指揮者・トレーナー: 楽団員との間隔を 2m 以上確保。マスクを着用。
- ②弦楽器: 楽団員間は 1.5m 以上確保。マスクを着用。譜面・譜面台は共用せずひとり一本ずつ使用する。
- ③管楽器: 楽団員間は 2m 以上確保。以下のような飛沫対策を楽器に応じて行う。
 - ・楽器内外の結露は布や紙で処理する。トーンホールの結露を息で吹き飛ばさない。
 - ・必要に応じ布や紙等を床に敷き、練習後は床の消毒を行う((5)記載の通り)。
 - ・処理に伴い発生するゴミは、各自がビニール袋に密封し持ち帰る。
 - ・練習後は楽器を片付けたらすぐに手指を手洗い・消毒する。
- ④打楽器: 楽団員間は 1.5m 以上確保。マスクを着用。楽器を共用する場合は適宜消毒を行う。

(7) 休憩と換気

- ・約 1 時間おきに休憩を取り、5～10 分間の換気を行う。

(8) 練習計画立案上の留意

- ①練習時間は、食事時間を挟まない時間帯に限定する。
- ②当面、パート練習を多用するなどにより、大人数での練習時間の短縮を図る。

2. 演奏会開催時

(検討中)

「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(クラシック音楽公演運営推進協議会)などを参考に

https://storage.googleapis.com/classicorjp-public.appspot.com/classic_guideline0612.pdf

※上記は、この後の感染拡大の状況や社会動向等に応じ適宜変更する。